

作成日 2025/6/18

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ZN試薬
製品コード	70380
供給者の会社名称	ビオメリュー・ジャパン株式会社
住所	東京都港区赤坂二丁目17番7号
電話番号	03-6834-2666
推奨用途	試薬
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器 全身毒性)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分1 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
H320 眼刺激
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370 呼吸器、全身毒性の障害
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き 安全対策

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)

特別な処置が必要である。(P321)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	混合物		CAS番号
			官報公示整理番号 化審法	安衛法	
亜鉛	90-100%	Zn	不明	不明	7440-66-6
酸化亜鉛	5-10%	ZnO	(1)-561	既存	1314-13-2

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合	ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすぐすること。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	粉末消火薬剤、乾燥砂。
使ってはならない消火剤	棒状水。
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。 漏出物は回収すること。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
環境に対する注意事項	粉末の場合は、電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収する。 粉塵が飛散しないようにして取り除く。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
二次災害の防止策	漏出物の上をむやみに歩かない。
7. 取扱い及び保管上の注意	

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
	安全取扱注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
保管	接触回避 安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 『10. 安定性及び反応性』を参照。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
亜鉛	未設定	未設定	未設定
酸化亜鉛	未設定	0.5mg/m3【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵1mg/m3 総粉塵4mg/m3	STEL 10 mg/m3 (Respirable fraction.) TWA 2 mg/m3 (Respirable fraction.)

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
亜鉛	未設定	未設定
酸化亜鉛	レスピラブル粒子として 0.1mg/m3(適用日:2025/10/01)	-(適用日:2025/10/01)

設備対策	蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具
	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。 ニトリル製保護手袋を着用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
形状	粉末
色	灰色
臭い	データなし
融点／凝固点	419.53°C(推定)
沸点又は初留点及び沸点範囲	907°C(推定)

可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 下限 界／可燃限界	データなし
上限	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配 係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	7.04 g/cm ³ (推定)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。

通常の取扱条件において安定である。

一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。

混触危険物質との接触。

強酸化剤

危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性

経口

急性毒性推定値が2631.5789474mg/kgのため区分5とした。

JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分に該当しないに変更。

急性毒性推定値が5000mg/kgのため区分5とした。

JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分に該当しないに変更。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

(気体)

GHS定義による気体ではない。

(蒸気)

データ不足のため分類できない。

(粉じん・ミスト)

急性毒性推定値が5.4376653mg/lのため区分5とした。

JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分に該当しないに変更。

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

眼区分2Bの成分合計が90%のため、区分2Bとした。

データ不足のため分類できない。

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性／皮膚刺激性

眼に対する重篤な損傷性
／眼刺激性

呼吸器感作性

皮膚感作性

生殖細胞変異原性

発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	(生殖毒性)
特定標的臓器毒性(単回 ばく露)	区分2の成分が10%のため、区分2とした。 (生殖毒性・授乳影響)
特定標的臓器毒性(反復 ばく露)	データ不足のため分類できない。 区分1(呼吸器)の成分が10%のため、区分1(呼吸器)とした。
誤えん有害性	区分1(全身毒性)の成分が10%のため、区分1(全身毒性)とした。 データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急 性)	区分1×毒性乗率の成分合計が190%のため、区分1と した。
水生環境有害性 長期(慢 性)	区分1×毒性乗率の成分合計が100%のため、区分1と した。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和な どの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態に する。
汚染容器及び包装	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門 の廃棄物処理業者に委託すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに 地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する こと。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 UN No. Proper Shipping Class Packing Group Marine Pollutant Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code	IMOの規定に従う。 3077 環境有害物質(固体) 9 III applicable Not applicable
国内規制	航空規制情報 UN No. Proper Shipping Class Packing Group 陸上規制 海上規制情報	ICAO／IATAの規定に従う。 3077 環境有害物質(固体) 9 III 非該当 船舶安全法の規定に従う。

国連番号	3077
品名	環境有害物質(固体)
クラス	9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3077
品名	環境有害物質(固体)
クラス	9
等級	III
緊急時応急措置指針番号	171

15. 適用法令 労働安全衛生法

労働安全衛生法(令和7年施行分)	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) 酸化亜鉛 危険物・発火性の物(施行令別表第1第2号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) 酸化亜鉛(安衛則別表第2の番号:619) 濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号)
労働安全衛生法(令和8年施行分)	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) 亜鉛 酸化亜鉛 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) 亜鉛(安衛則別表第2の番号:1) 酸化亜鉛(安衛則別表第2の番号:619)
毒物及び劇物取締法 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	非該当 非該当

16. その他の情報 連絡先

参考文献

医療分野の方/代理店:0120-265-034
上記以外の方/代理店:0120-022-328
bioMérieux SDS (70380 Version#04 Revision date:02-12-2024 Issue date:12-17-2024)
bioMérieux Package Insert (15460I-en-2020/04)
NITE-CHRP(独立行政法人 製品評価技術基盤機構
化学物質総合情報提供システム)
JIS Z 7253 :2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
ezSDS

その他

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものです。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

【改訂履歴】

化管法対応済(R5.04施行分)

安衛法対応済(R8.04施行分)

住所変更(2025.12)